

7

万 ー の と き

工具、スペアタイヤ

工具	7-2
応急用スペアタイヤ (4ドア)	7-5

パンクしたとき

タイヤ交換手順	7-9
応急用パンク修理 (5ドア)	7-14

発炎筒

発炎筒について	7-25
---------	------

故障したとき

踏切で動けなくなったとき	7-27
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき	7-27
路上で動けなくなったとき	7-28
故障時の対応方法と連絡先	7-28

けん引のとき

けん引してもらうとき	7-29
他車をけん引するとき	7-33

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたとき	7-35
-------------	------

バッテリーが上がったとき

バッテリーが上がったとき	7-37
--------------	------

事故が起きたとき

対処のしかた	7-40
--------	------

工具、スペアタイヤ

工具

■工具

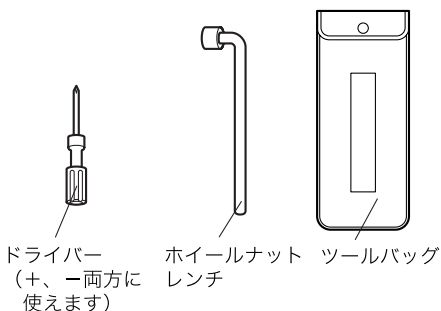
- 基本工具（ドライバー、ホイールナットレンチ）
- ジャッキ・ジャッキハンドル

工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。

使用後は元の場所に戻してください。

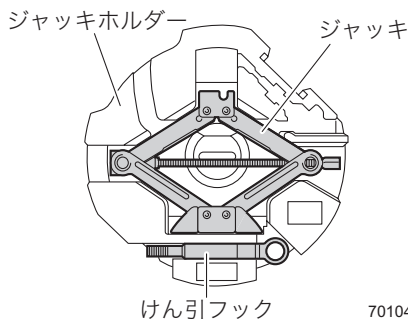
4ドア車のジャッキおよびけん引フックはジャッキホルダーに、5ドア車はカーゴルーム床下に格納されています。

☆7-3ページ参照



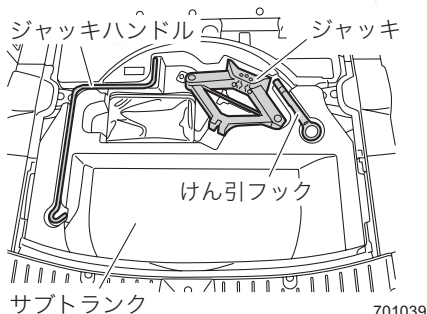
600782

4ドア



701040

5ドア

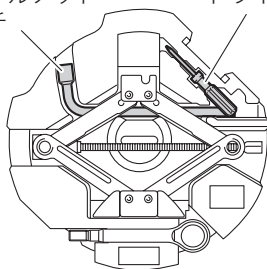


701039

4ドア車はドライバー、ホイールナットレンチをジャッキホルダーに格納することができます。

ホイールナット
レンチ

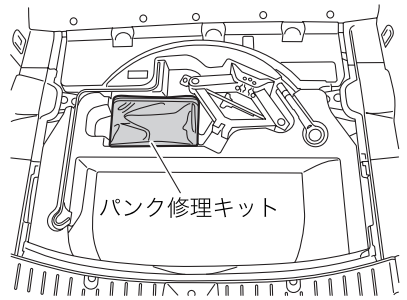
ドライバー



700974

5ドア車は、パンク修理キットがカーゴルーム
床下に収納されています。

☆7-14ページ参照



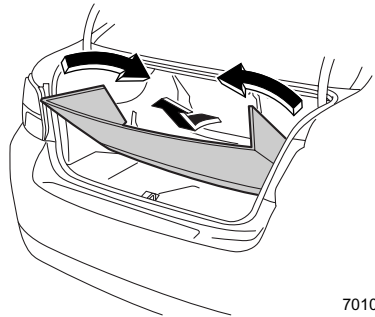
701041

■ジャッキ、ジャッキハンドルの取り出し方

●4ドア

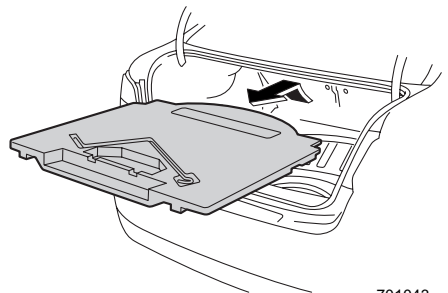
トランクルームの床下に収められています。

- ①トランクルーム床のリッド（フタ）を取り出します。



701042

- ②サブトランクを取り出します。



701043

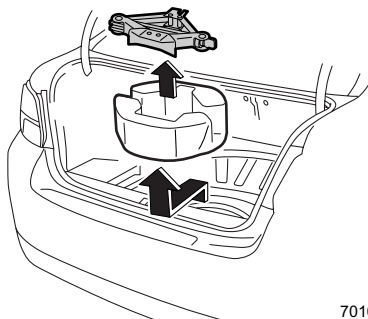
次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

工具、スペアタイヤ

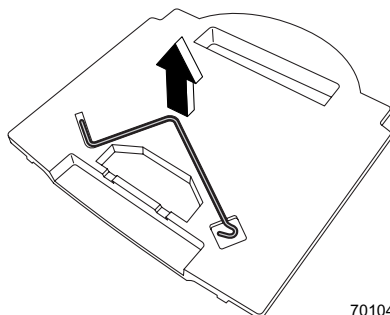
⇒前ページより

- ③ ジャッキホルダーからジャッキを取り出します。



701044

- ④ サブトランクに収められているジャッキハンドルを取り出します。

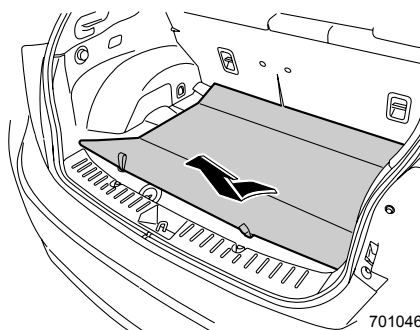


701045

■5ドア

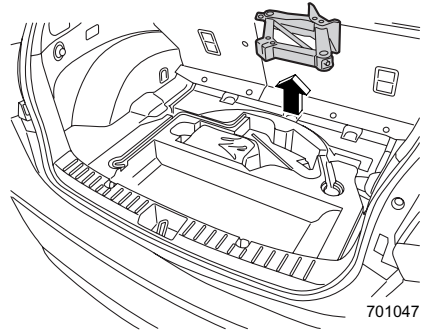
カーゴルームの床下に収められています。

- ① カーゴルーム床のリッド（フタ）を取り出します。

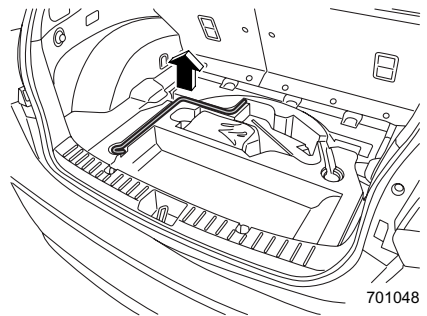


701046

- ② ジャッキホルダーからジャッキを取り出します。



- ③ ジャッキハンドルを取り出します。



応急用スペアタイヤ (4ドア)

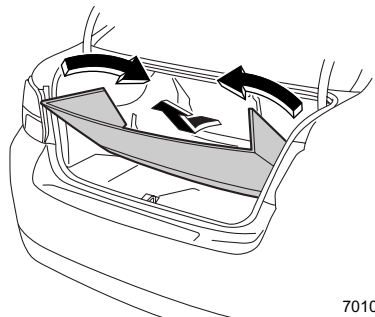
5ドア車には応急用スペアタイヤがありません。応急用のパンク修理キットが装備されています。

☆7-14ページ参照

■スペアタイヤの取り出しかた

トランクルームの床下に収められています。

- ① トランクルーム床のリッド (フタ) を取り出します。



万
一
の
と
き

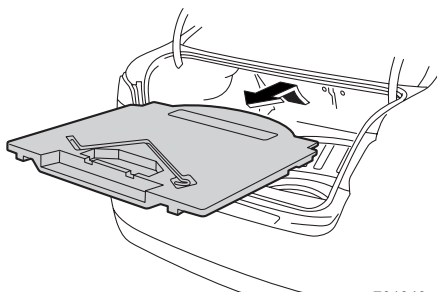
次ページへ ⇒

7-5

工具、スペアタイヤ

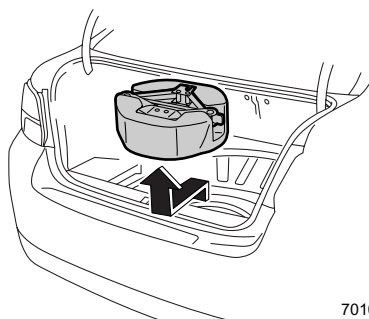
⇒前ページより

② サブトランクを取り出します。



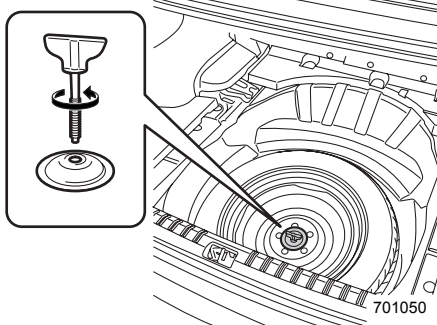
701043

③ ジャッキホルダーを取り出します。



701049

④ スペアタイヤを固定しているネジを外し、
スペアタイヤを取り出します。



701050

⚠ 注意

応急用スベアタイヤは、標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スベアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことを守ってください。


- 応急用スベアタイヤの空気圧は空気圧ゲージを使用して必ず点検してください（月1回程度）。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
空気圧：420 kPa (4.2 kgf/cm²)（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スベアタイヤを使ってください。
この応急用スベアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- 応急用スベアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スベアタイヤを装着したときは、100 km/h以下の速度で走行してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スベアタイヤを装着してください。
- 応急用スベアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スベアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スベアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時に対し車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- ウエアインジケータが現れたら新品の応急用スベアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スベアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。

パンクしたとき

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です（スベアタイヤを除く）。
- ジャッキアップしたらエンジンを始動しないでください。車が発進したり、ジャッキが外れるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたら車内に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあります危険です。
- ジャッキアップしたら車両の下にもぐり込まないでください。ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- 同乗者がいる場合は、必ず車から降りてください。
- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他の車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- ジャッキ使用前に駐車ブレーキを確実にかけ、CVT車はセレクトレバーを  に、マニュアル車はチェンジレバーを“R”または“1”にしてください。
- 輪止め（タイヤストッパー）などをして車を固定してください。
- ジャッキと車両の間に台やブロックなどを挟まないでください。
- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め付けてください。

☆7-11ページ参照

- 車体に振動がでたらスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。
- ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

タイヤ交換手順

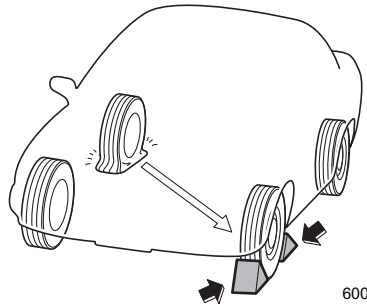
■交換前にすること

- ① 交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを止めます。

⚠ 注意

地面が平坦で硬く、車が安定する安全な場所を選んで止めてください。

- ② 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
マニュアル車はチェンジレバーを“R”または“1”に、CVT車はセレクトレバーを[P]に入れます。
- ③ 非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
- ④ 車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め（タイヤストッパー）をします。
(図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。)



600122

- ⑤ ジャッキハンドル、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、工具を取り出します。
☆7-2ページ参照

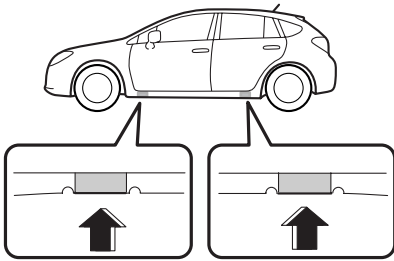
- ⑥ 応急用スペアタイヤを、交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。

🏠 アドバイス

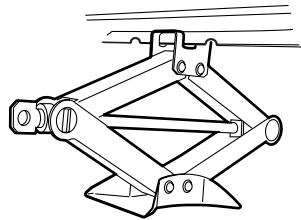
輪止め（タイヤストッパー）および停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

■ジャッキアップするとき

- ① 交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置き、ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキを手で回します。



701051

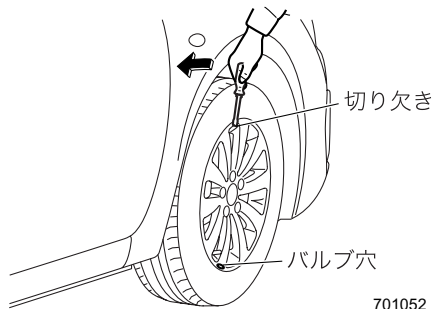


700976

⚠ 注意

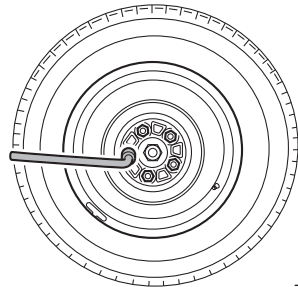
ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認してください。
ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷つけるおそれがあります。

- ② フルホイールキャップ装備車は、バルブ穴と反対側にある切り欠き部にドライバーを差し込み、ドライバーをタイヤ側にこじってフルホイールキャップを取り外してください。



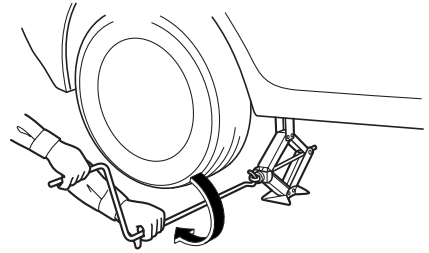
701052

- ③ ホイールナットレンチを使い、全てのホイールナットを約半回転ゆるめます。



700598

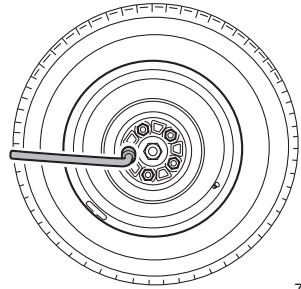
- ④ ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。
ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。



700539

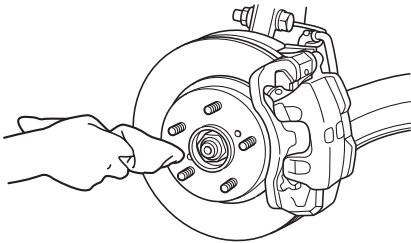
■ タイヤ交換

- ① ホイールナットを外します。

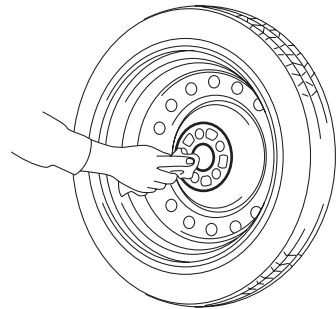


700598

- ② タイヤを付け替えます。
このとき、ホイール取付部とホイールの接触面の汚れを拭き取ってください。



600061



600162

アドバイス

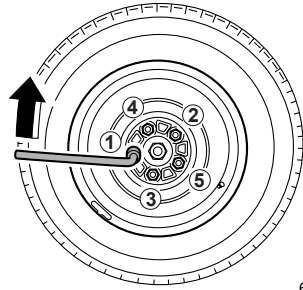
タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

次ページへ ⇒

パンクしたとき

⇒前ページより

- ③ ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。
- ④ ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。
- ⑤ ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。



600192

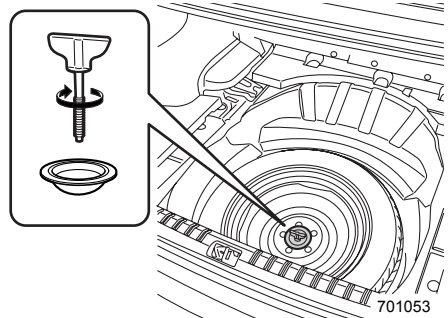
レンチの柄の先端にかける力	締め付トルク (参考)
400~500 N (40~50 kg)	100 N·m (10 kg·m)

⚠ 注意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油がついていると締め過ぎの原因になります。

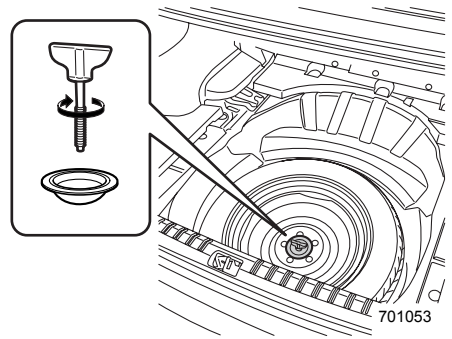
■パンクしたタイヤの格納

- センターキャップ付ホイール装備車は、センターキャップを取り外してください。
- スペアタイヤが格納されていた場所にします。スペアサーを必ず図の向きにしてネジを取り付けます。



701053

- パンク修理後、応急用スペアタイヤを戻すときはスペーサーを必ず図の向きにしてネジを取り付けます。



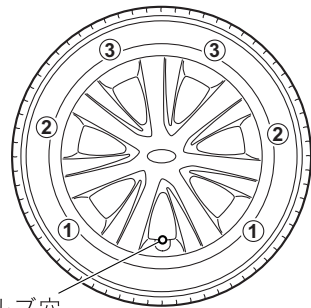
■タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。外したサブトランクは荷室に入れてください。

☆7-2ページ参照

- 最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- 処置後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤに交換してください。フルホイールキャップ装備車は、以下の手順でカバーを取り付けてください。

- ①フルホイールキャップをバルブ穴へ通します。
- ②バルブ側から順に、フルホイールキャップを左右同時に軽くたたいて、確実に取り付けてください。



バルブ穴

701054

応急用パンク修理 (5ドア)

応急用スペアタイヤが装備されていない車両は、タイヤがパンクしたとき車載のパンク修理キットで応急修理をしてください。タイヤ修理の際は、作業をスムーズにするため本取扱説明書をお読みになってから作業してください。

警告

パンク修理キットはパンクタイヤの応急修理のみに使用してください。パンク修理以外に使用すると重大な事故やけがをすることがあります。

注意

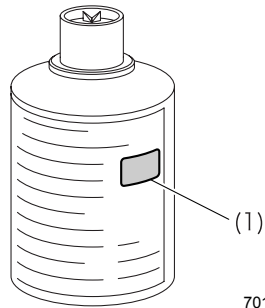
- 修理剤を誤って飲用した場合は、できるだけたくさん水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。
- 修理剤が目や皮膚についた場合は、水でよく洗い流してください。また、異常を感じたら医師の診断を受けてください。
- お子様を誤って修理剤に手を触れないようご注意ください。
- コンプレッサーを使用するときは、次のことをお守りください。コンプレッサーの故障の原因となります。
 - － 10分以上連続して作動させないでください。
 - － 水をかけないでください。降雨時の作業では水がかからないよう作業してください。
 - － 砂地など砂埃の多い場所で使用しないでください。
 - － 本体が熱を持ち、作動が鈍くなったら使用を中止してください。再使用するときは、コンプレッサーが冷えたことを確認してから使用してください。
 - － 分解・改造などを行わないでください。また、衝撃を与えないでください。

 **アドバイス**

● 次の場合は、応急修理ができません。スバル販売店やJAFロードサービスに連絡してください。

－ 修理剤の有効期限が過ぎているとき

(1) 有効期限表示

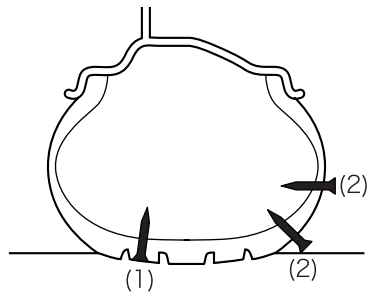


701055

－ 接地部以外が損傷を受けパンクしているとき

(1) ○

(2) ×



700921

－ タイヤが2本以上パンクしているとき（修理剤1本につき、修理できるタイヤは1本です）

－ ほとんど空気が抜けている状態で走行したとき

－ タイヤがホイールから外れているとき

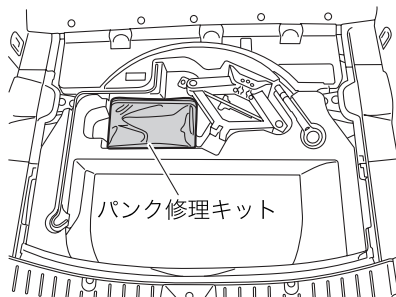
－ ホイールが損傷しているとき

● 修理剤は有効期限があります。有効期限が切れる前に交換してください。交換についてはスバル販売店にご相談ください。

● 修理剤は衣服などに付着すると取れなくなるおそれがあります。

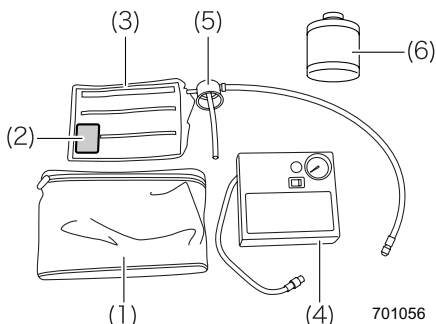
■パンク修理キット

パンク修理キットはカーゴルーム床下に収納されています。



701041

- ケース (1)
- 速度制限シール (2)
- クイックリファレンス (3)
- コンプレッサー (4)
- 注入キャップ (5)
- 修理剤 (6)



701056

●修理する前に

- ①交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを止めます。
- ②駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ③非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
- ④パンク修理キットを荷室から取り出します。

⚠ 注意

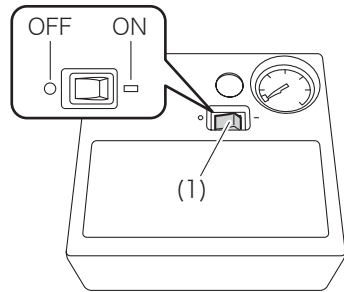
- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かず応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、パンク修理キットの修理剤では応急修理ができなくなる場合があります。
- パンク修理キットは、搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

🏠 アドバイス

輪止め（タイヤストッパー）および停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備しておいてください。

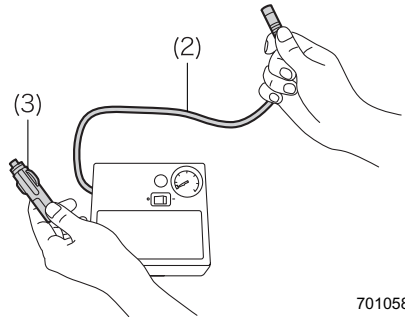
●修理のしかた

- ① コンプレッサーの電源スイッチ (1) がOFFの位置にあることを確認します。



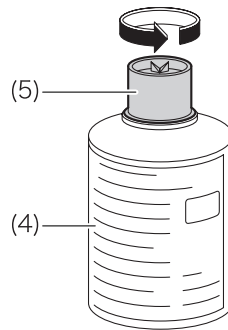
701057

- ② コンプレッサー本体の裏側からホース (2) と電源コード (3) を取り出します。



701058

- ③ 修理剤 (4) のボトルをよく振ってから、キャップ (5) を外します。



701059

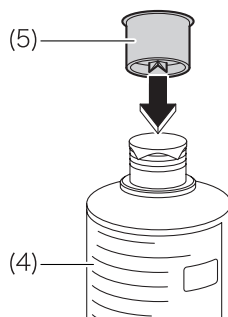
次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

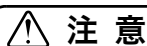
パンクしたとき

⇒前ページより

- ④ キャップ (5) の上側にある突起部で、修理剤 (4) のアルミシールに穴を開けてください。



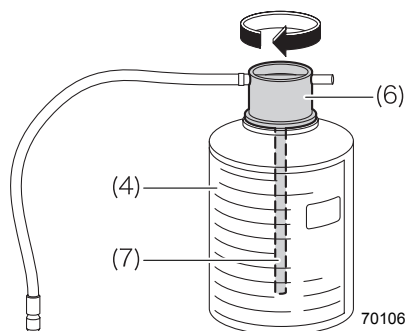
701060



注意

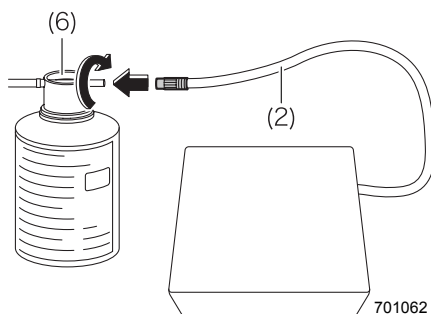
修理剤をこぼさないようにしてください。

- ⑤ 修理剤 (4) のボトルに注入キャップ (6) のチューブ (7) を差し込み、注入キャップ (6) を確実に取り付けます。



701061

- ⑥ コンプレッサーのホース (2) 先端部を、注入キャップ (6) に確実に取り付けます。



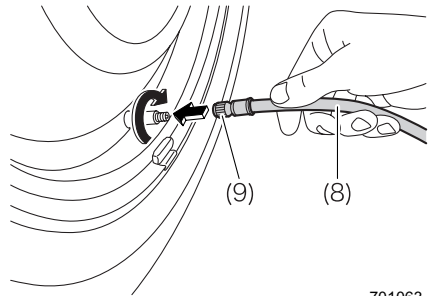
701062

注意

コンプレッサーおよびバルブを接続するときは、ホースのねじれに注意してください。

⑦ 損傷したタイヤのバルブキャップを外します。

⑧ 注入キャップゴムホース (8) 先端のバルブ金具 (9) を損傷したタイヤのバルブに確実に差し込みます。

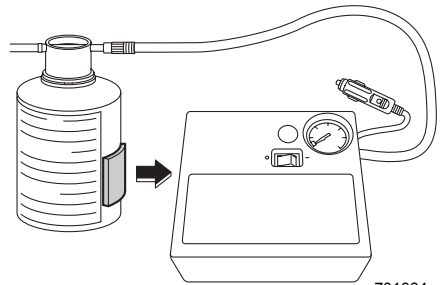


701063

注意

バルブ金具のねじ込みが足りないと修理剤が漏れるおそれがあります。

⑨ 修理剤 (4) のボトルが倒れないように、マジックテープでコンプレッサーに固定してください。



701064

次ページへ ⇒

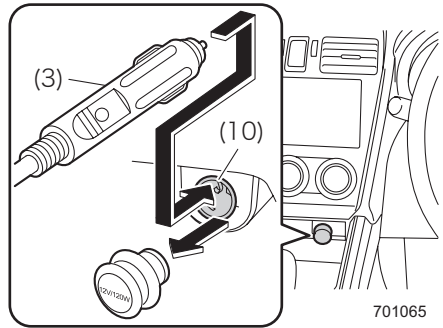
万
一
の
と
き

パンクしたとき

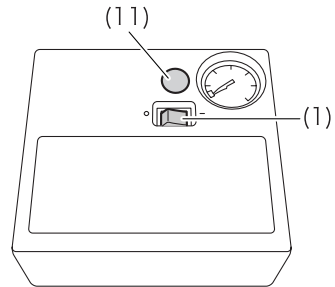
⇒前ページより

- ⑩ 電源コード (3) を電源ソケット (10) に
確実に差し込みます。

☆4-51ページ参照



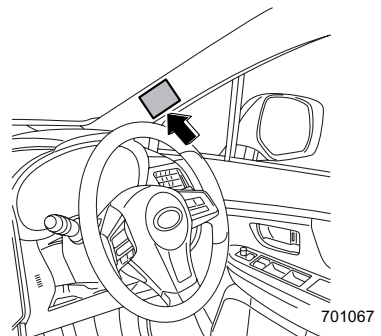
- ⑪ エンジンスイッチをACCにします。
- ⑫ タイヤ側面のひびや傷などを点検して異常
がない場合のみ、コンプレッサーの電源ス
イッチ (1) をONにして修理剤とエアを注
入します。



注意

コンプレッサーの側から離れ、タイヤ側面に亀裂やへこみがないか確認します。
亀裂やへこみなどの損傷が確認できた場合は直ちにコンプレッサーを停止し、
コンプレッサーのエア抜きボタン (11) を押してエアを抜きます。

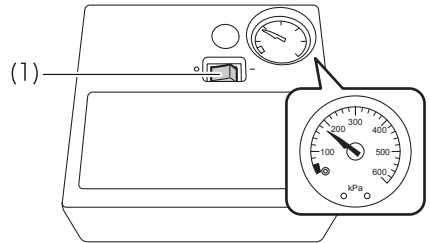
- ⑬ 速度制限 (80km/h) シールを取り出し、ド
ライバーからよく確認できる位置に速度制
限シールを張ります。



注意

ラベルは、ハンドル中央部やダッシュボードには貼らないでください。SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。また、メーターの警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置に貼らないでください。

- ⑭ タイヤ空気圧が最低 180kPa になったら、コンプレッサーの電源スイッチ (1) をOFFにします。

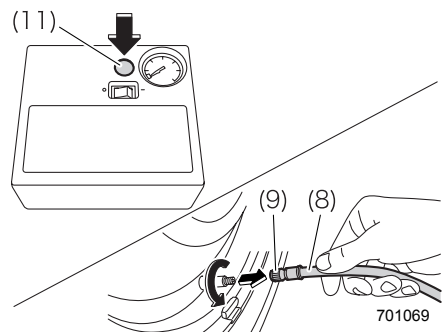


701068

注意

- 修理剤を注入しているとき、空気圧は一時的に 300 kPa 以上に高くなりますが、修理剤が全て流れ込むと空気圧は下がります。
- 10分以上エアを入れてもタイヤ空気圧が最低180kPaにならない場合、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合、パンク修理キットによる応急修理はできません。スバル販売店またはJAFロードサービスなどに連絡してください。

- ⑮ コンプレッサーのエア抜きボタン (11) を押しながら、注入キャップゴムホース (8) 先端のバルブ金具 (9) を、タイヤのバルブから外します。



701069

次ページへ ⇒

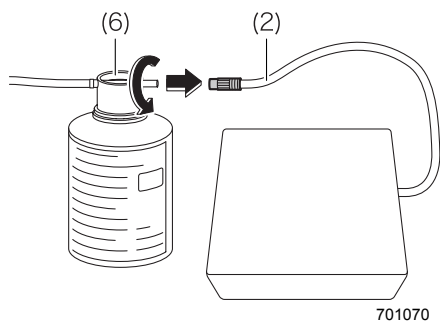
パンクしたとき

⇒前ページより

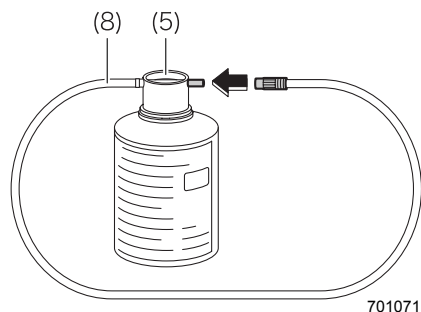
注意

バルブ金具の取り外しは、すばやく行ってください。

- ⑩ コンプレッサーのホース(2)を、注入キャップ(6)から外します。



- ⑪ 修理剤がこぼれないように、注入キャップゴムホース(8)先端のバルブ金具(9)を、すばやく注入キャップ(5)の空いている口につないでください。



注意

修理剤が皮ふや衣類に付着しないよう注意してください。

- ⑫ パンク修理キットを車両に搭載して直ちに走行します。走行は法定速度を守って、80km/h以下の速度で急ハンドルなどを避け、慎重に運転してください。

⚠ 注意

- 走行中異常を感じたときは、運転を中止してスバル販売店またはJAFロードサービスなどに連絡してください。修理剤の補修が完了していない場合、空気圧が低下して安定性を損なうおそれがあります。
- パンク修理キットとボトルが動かないよう確実に固定してください。急ブレーキなどでパンク修理キットとボトルが乗員に当たり、けがをするおそれがあります。

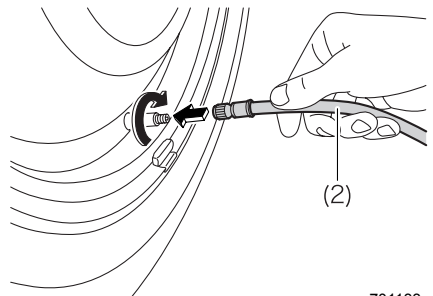
⑱ 10分間または5km程度走行した後、安全な場所に車を止め、コンプレッサー付属の空気圧計を使用してタイヤ空気圧を点検します。

タイヤ空気圧のラベルは運転席側のドアを開けたボディ側に貼られています。

☆6-6ページ参照

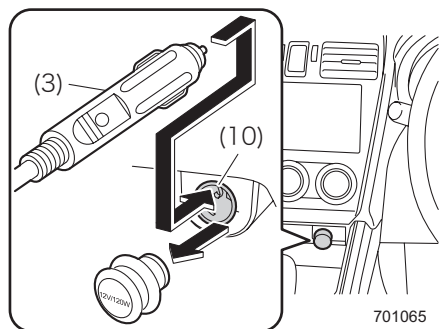
20 応急修理したタイヤのバルブキャップを外します。

21 コンプレッサーのホース (2) 先端部を、応急修理したタイヤのバルブに確実に差し込みます。



701133

22 電源コード (3) を電源ソケット (10) に確実に差し込みます。



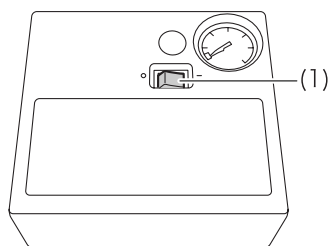
701065

次ページへ ⇒

パンクしたとき

⇒前ページより

- 23 コンプレッサーの電源スイッチ (1) をONに切り替え、数秒間ONにしてからOFFにしてください。



701136

- 24 タイヤ空気圧が130kPa以上のときは、もう一度指定の空気圧まで空気を入れます。タイヤ空気圧が130kPa未満のときは、修理剤による応急修理はできません。運転を中止してスバル販売店またはJAFロードサービスにご連絡ください。

⚠ 注意

応急修理したタイヤで200km以上の距離を走行しないでください。

🏠 アドバイス

寒冷時は修理完了までの時間、走行距離が長くなる場合があります。この場合、手順⑱から²⁴の作業を繰り返してください。作業を繰り返しても空気圧が低下する場合は応急修理ができません。運転を中止してスバル販売店またはJAFロードサービスに連絡してください。

- 25 すみやかにスバル販売店まで急ハンドルなどを避け、慎重に運転し点検を受けてください。

🏠 アドバイス

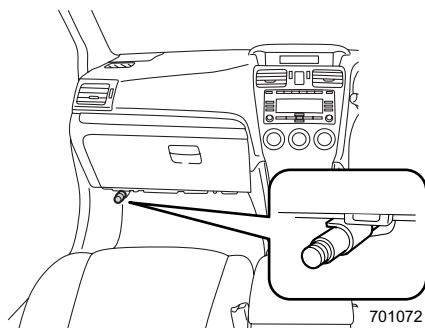
- パンク修理キットを使用したときは、タイヤおよびタイヤのバルブを新品に交換してください。
- ☆6-16ページ参照
- 使用したパンク修理キットは、修理剤、ホース、速度制限シール、注入キャップを交換してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

発炎筒

発炎筒について

グローブボックス左下に発炎筒を備えています。

発炎筒の外筒に書いてある使用方法を、あらかじめ確認しておいてください。



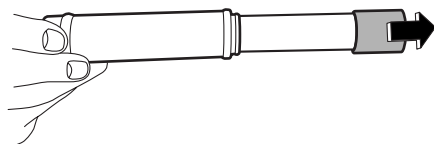
■ 使いかた

- ① ケースをひねり、本体からケースを取り外します。



600029

- ② ケースを本体の後部に取り付け、本体の白いキャップを取り外します。



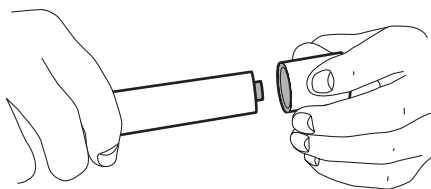
600030

次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

⇒前ページより

- ③ 本体の先端を、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



600031

警告

- 発炎筒をお子さまにはさわらせてないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
 - 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
 - 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
 - トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯（ハザードランプ）を使用してください。
- ☆3-20ページ参照

アドバイス

- 発炎筒は常に使えるようにしておいてください。
- 発炎筒には有効期限が明記されています。有効期限が切れる前にスバル販売店でお求めください。

故障したとき

踏切で動けなくなったとき

踏切で脱輪などにより脱出できない場合は、踏切の非常ボタンを押してください。

非常ボタンがない場合、位置がわからない場合、緊急を要する場合は、発炎筒を使い合図をしてください。

☆7-25ページ参照



701073

アドバイス

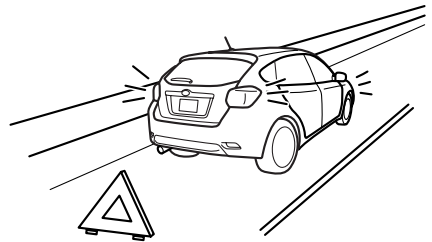
エンジンスイッチを START に保持しても（スターターを回している状態）、一時緊急的に車を動かすことはできません。

- CVT車は[P]または[N]以外ではスターターが回りません。
- マニュアル車はクラッチペダルを踏まないとスターターが回りません。

高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

- ①車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅表示灯（ハザードランプ）を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

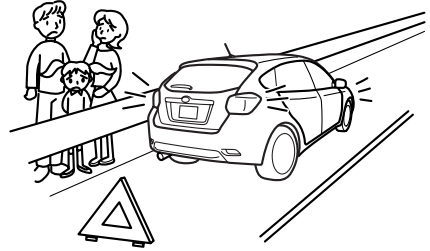
☆3-20ページ参照



701074

故障したとき

- ② 全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。



701075

- ③ 安全を確保後、救援をたのみます。

アドバイス

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

- ① あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。
- ☆2-17、3-38ページ参照
- ② エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押しってもらって安全な場所へ移動してください。
- 移動するときはチェンジレバー、セレクトレバーをNにします。
- ☆3-41、3-48ページ参照

故障時の対応方法と連絡先

- ① 車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
- ② 最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡し、ご相談ください。
- ③ スバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡が取れない場合はJAFロードサービスに連絡し、ご相談ください。

アドバイス

- スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は「スバルサービスネットワーク」に記載されています。
- 万一のために、JAFに入会されることをお奨めします。

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。旅先では、「スバルサービスネットワーク」を参考に、スバル販売店、スバル指定サービス工場、JAFロードサービスに依頼してください。

けん引してもらおうとき

■けん引方法の違い

車の仕様によりけん引方法が違います。

- 車載（4輪持ち上げ）の場合
マニュアル車、CVT車ともに可能です。トランスミッション（変速機）や駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープけん引
マニュアル車は可能ですが、CVT車は次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
－ 速度30km/h以下で走行してください。
－ 走行距離は30kmを超えないでください。
- 前輪持ち上げけん引の場合
2WD車のみ可能です。

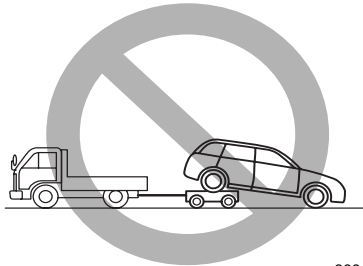
⚠ 注意

- AWD車の場合、前輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。



600190

- 全車後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

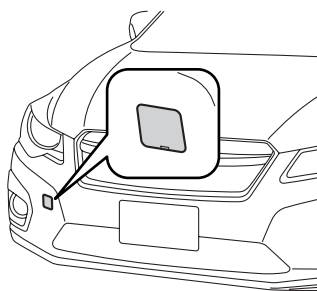


600191

■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、フロントバンパーにけん引フックを取り付けます。

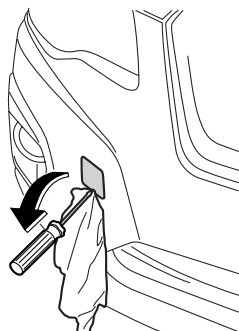
けん引時は、けん引フックにソフトロープをかけて行ってください。



701076

●けん引フックの取り付けかた

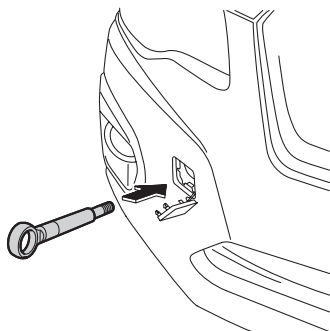
- ①バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切りかきに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。



701077

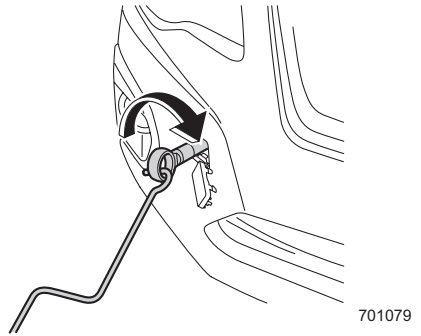
- ②けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

☆7-2ページ参照



701078

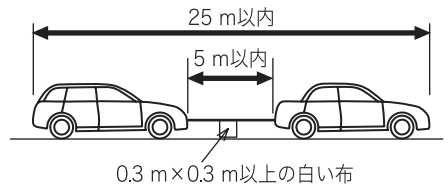
- ③ ジャッキハンドルなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。



701079

●けん引方法

- ① ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布 (0.3 m×0.3 m以上) をつけます。




600023


- ② セレクトレバーを **N** (CVT車)、もしくはチェンジレバーを“N” (マニュアル車) にします。
- ③ エンジンスイッチをONにします。
- ④ 駐車ブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

警告

- エンジンスイッチをLOCK (OFF) にしたり、キーを抜いたりしないでください。ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたときエアバッグが正常に作動しないことがあります。

 **注意**

- セレクトレバーを **N** (CVT車)、もしくはチェンジレバーを “N” (マニュアル車) にしてください。
- エンジンスイッチを ON にしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載 (4輪持ち上げ) でのけん引を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などでロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジン を止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
 - ー ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
 - ー パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 駐車ブレーキを確実に解除してください。
- トランスミッション (変速機) および駆動装置、走行装置が故障したと思われるときは必ず車載で (4輪を持ち上げて) けん引してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

 **アドバイス**

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引されると、バンパーを損傷するおそれがあります。

他車をけん引するとき

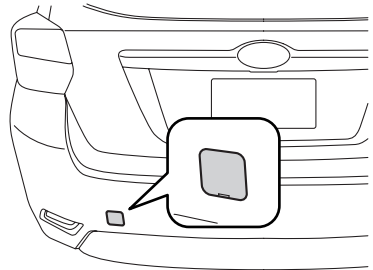
やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

アドバイス

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

■けん引フックの取り付け位置

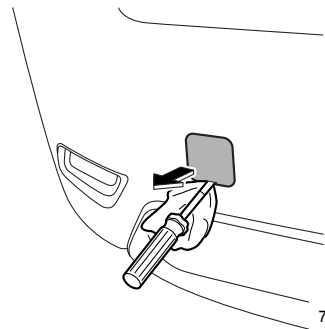
リヤバンパー左下にあります。



701080

■けん引フックの取り付けかた

- ① バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切りかきに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。



701081

次ページへ ⇒

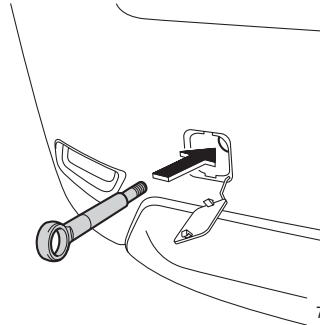
万
一
の
と
き

けん引のとき

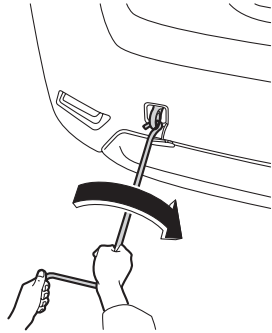
⇒前ページより

- ② けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

☆7-2ページ参照



- ③ ジャッキハンドルなどを使って、奥まで確実にけん引フックを締め付けてください。



オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたとき

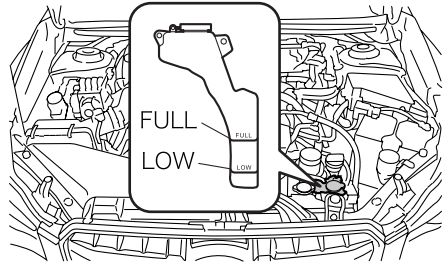
このようなときは、オーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅または点灯したとき
- エンジンの力が急に落ちたとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているとき

☆3-36ページ参照

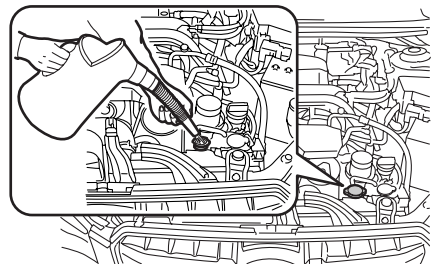
■対処のしかた

- ① 後続車に注意して安全な場所に車を止め、エアコンを止めます。
- ② 車両の状態に応じて次の処置を行ってください。
 - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、すぐにエンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。
 - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。冷却ファンが回っている場合は水温警告灯が消灯し、時間が充分経過してからエンジンを止めます。冷却ファンが回っていない場合は、すぐにエンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。
- ③ エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。
- ④ リザーバータンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水はFULL位置まで補給してください。



701084

- ⑤ ラジエーターキャップを開け、冷却水を補給してください。



701085

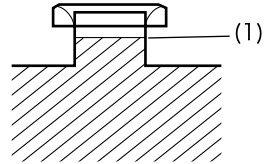
万
一
の
と
き

次ページへ ⇒

オーバーヒートしたとき

⇒前ページより

冷却水はキャップの口元まで（イラストの（1）の位置まで）補給します。



700759

警告

- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

注意

冷却水は、エンジンが熱いときに入れしないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

アドバイス

冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。補給する水は、軟水または水道水をご使用ください。

⑥ 早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

バッテリーが上がったとき

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき
- ランプがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき

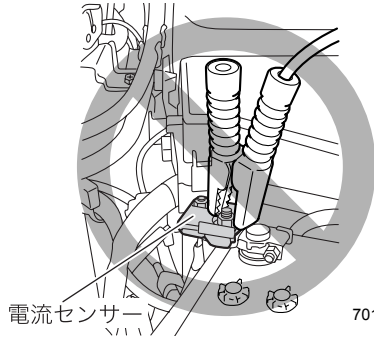
■ 対処のしかた

押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

警告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で充電または使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、発熱や破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、必ず次のことをお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
 - － ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
 - － ⊕端子と⊖端子を接触させないでください。
 - － 自車のバッテリーの⊖端子にケーブルを接続しないでください。
 - － バッテリー⊕端子付近にある電流センサーなどには絶対にケーブルを接続しないでください。電流センサーなどが破損するおそれがあります。
- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮膚につくと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。



 **注意**

ブースターケーブルを接続するときは、次の項目をお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。
- キーレスアクセス&プッシュスタート装備車の場合、バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。始動しない場合は、ステアリングロックの初期化を行ってください。

☆2-17ページ参照

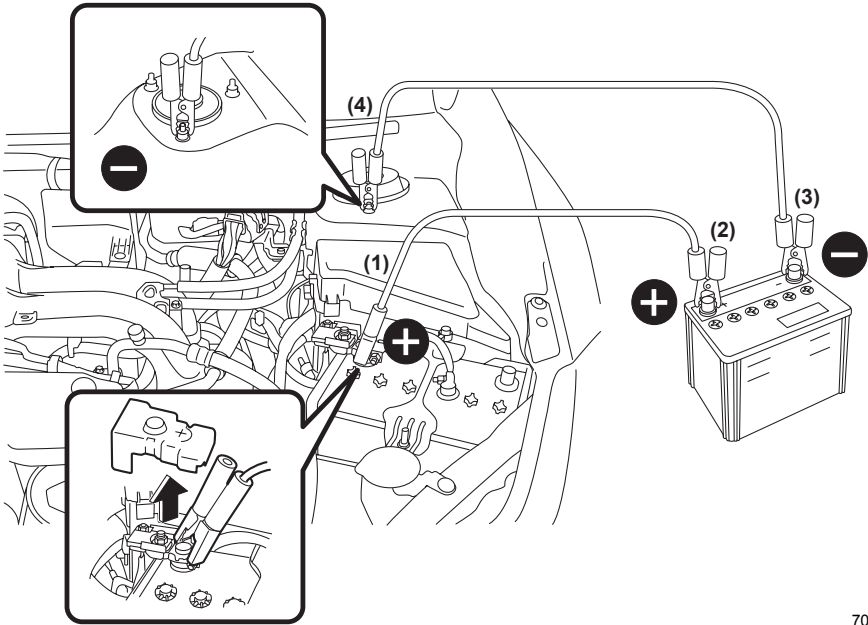
● **ブースターケーブルの接続手順**

- ① ⊕端子のカバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなげます。(1)
- ② 赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなげます。(2)
- ③ 黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなげます。(3)
- ④ 黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体(バッテリーから離れたボルトなど)につなげます。(4)
- ⑤ 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
- ⑥ 自車のエンジンをかけます。
- ⑦ ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

 **アドバイス**

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

☆8-3ページ参照



701120

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

対処のしかた

①続発事故の防止につとめてください

他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救護につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください

ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。